2024 年度　長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	マクロ経済学（Macroeconomics） 2436-0-11-002					担当教員	牧野　智一 （マキノ　トモカズ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	4	配当年次	1 年次	開講期	後期②
科目特性	資格対応科目／知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
本授業は、マクロ経済学の基礎知識を学習することを目的とする。マクロ経済学は経済を国全体の観点から考え、国民生活に及ぼす影響について分析する学問である。景気や失業などの現実社会で起こる経済現象について経済学の観点から把握し分析するための理論の習得を目標とする。なお、マクロ経済学とミクロ経済学は、現在の経済学の基礎となる学問であり、他の経済学関係の科目を履修する上でも必要不可欠となる知識であることを十分に理解して講義に臨むこと。また、経済学検定試験も意識した内容で講義は進めるため、テキストで触れていない内容についても解説する。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
講義形式の授業を行う。各回の授業内容は関連しているため、十分な復習をした上で授業に臨むこと。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「マクロ経済学演習」「ミクロ経済学」「ミクロ経済学演習」「金融論」「財政学」
⑤ テキスト（教科書）
N・グレゴリー・マンキュー（2019）『マンキュー入門経済学（第３版）』東洋経済新報社
⑥ 参考図書・指定図書
竹内信仁編（2013）『スタンダードマクロ経済学』中央経済社
⑦ 評価Ａに対応する具体的な学習到達目標の目安
（ｉ）GDP とその特徴を他者に適切に説明でき、その知識をある程度応用することができる。 （ⅱ）財市場の仕組みついて他者に適切に説明でき、財市場についてある程度分析できる。 （ⅲ）貨幣市場の仕組みついて他者に適切に説明でき、貨幣市場についてある程度分析できる。 （ⅳ）IS 曲線と LM 曲線について他者に適切に説明でき、IS-LM 分析を用いて分析ができる。

⑧　ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
（ｉ）GDP とその特徴	GDP とその特徴を他者に適切に説明でき、その知識を適切に応用することができる。	GDP とその特徴を他者に適切に説明でき、その知識をある程度応用することができる。	GDP とその特徴を他者に適切に説明できる。	GDP とその特徴を他者にある程度説明できる。	GDP とその特徴を他者にほとんど説明できない。
（ⅱ）財市場の仕組みの理解と分析能力	財市場の仕組みついて他者に適切に説明でき、財市場について適切に分析できる。	財市場の仕組みついて他者に適切に説明でき、財市場についてある程度分析できる。	財市場の仕組みについて他者に適切に説明できる。	財市場の仕組みについて他者にある程度説明できる。	財市場の仕組みと分析について他者にほとんど説明できない。
（ⅲ）貨幣市場の仕組みの理解と分析能力	貨幣市場の仕組みついて他者に適切に説明でき、貨幣市場について適切に分析できる。	貨幣市場の仕組みついて他者に適切に説明でき、貨幣市場についてある程度分析できる。	貨幣市場の仕組みについて他者に適切に説明できる。	貨幣市場の仕組みについて他者にある程度説明できる。	貨幣市場の仕組みと分析について他者にほとんど説明できない。
（ⅳ）IS-LM 分析による分析能力	IS 曲線と LM 曲線について他者に適切に説明でき、IS-LM 分析を用いて現実社会と関連させて分析できる。	IS 曲線と LM 曲線について他者に適切に説明でき、IS-LM 分析を用いて分析ができる。	IS 曲線と LM 曲線について他者に適切に説明でき、IS-LM 分析を用いてある程度分析できる。	IS 曲線と LM 曲線について他者にある程度説明できる。	IS-LM 分析について他者にほとんど説明できない。

⑨　学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加･意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		10%		30%		100%
（ｉ）GDP とその特徴	15%		2%		6%		23%
（ⅱ）財市場の仕組みの理解と分析能力	15%		3%		9%		27%
（ⅲ）貨幣市場の仕組みの理解と分析能力	15%		3%		9%		27%
（ⅳ）IS-LM 分析による分析能力	15%		2%		6%		23%
フィードバックの方法	試験結果の得点分布等を公表する						

⑩　担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
昨年度に引き続き、学生諸君が授業内容を理解しやすいように、わかりやすい表現と丁寧な解説を心掛けて授業を行う。

⑪　授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	マクロ経済学とは	マクロ経済学の分析対象とミクロ経済学との違いについての理解	60 分
2	国内総生産（GDP）	国内総生産（GDP）の特徴の理解	180 分
3	付加価値	付加価値についての理解	180 分
4	国内総所得（GDI）	国内総所得についての理解	180 分
5	国内総支出（GDE）	国内総支出についての理解	180 分
6	GDP の三面等価	GDP の三面等価についての理解	180 分
7	国民所得の諸概念	国民所得の諸概念についての整理	180 分
8	国民所得の計算	国民所得の諸概念の関係についての計算による理解	180 分
9	名目 GDP と実質 GDP	名目 GDP と実質 GDP の違いと役割についての理解	180 分
10	GDP と経済厚生	GDP が経済厚生の指標として利用される理由についての理解	180 分
11	財市場の総供給	財市場の総供給についての理解	180 分
12	財市場の総需要	財市場の総需要についての理解	180 分
13	ケインズ型消費関数	ケインズ型消費関数についての理解	180 分
14	財市場の分析（国民所得の決定）	均衡国民所得についての理解	180 分
15	均衡国民所得と完全雇用国民所得	均衡国民所得と完全雇用国民所得の関係についての理解	180 分

16	財政政策と乗数効果①（政府支出乗数）	政府支出乗数についての理解	180 分
17	財政政策と乗数効果②（租税乗数）	租税乗数についての理解	180 分
18	金融市場と貨幣市場	金融市場と貨幣市場の関連についての理解	180 分
19	貨幣の概念	貨幣の概念についての整理	180 分
20	利子率と債券価格	利子率と債券価格の関係についての理解	180 分
21	貨幣需要	貨幣需要についての理解	180 分
22	貨幣供給	貨幣供給についての理解	180 分
23	信用創造	信用創造メカニズムについての理解	180 分
24	貨幣市場の分析（利子率の決定）	貨幣市場の分析方法についての理解	180 分
25	金融政策とその手段	金融政策とその手段についての理解	180 分
26	ＩＳ曲線と財政政策	ＩＳ曲線と財政政策の関連についての理解	180 分
27	LM 曲線と金融政策	LM 曲線と金融政策の関連についての理解	180 分
28	IS－LM 分析①（財政政策の効果）	IS－LM 分析による財政政策の効果についての理解	180 分
29	IS－LM 分析②（金融政策の効果）	IS－LM 分析による金融政策の効果についての理解	180 分
30	まとめ	各回の講義内容の整理と理解	240 分

⑫　アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。各回の授業に対するコメント（感想・質問等）を学生諸君よりもらい、翌週の授業で可能な限りコメントに対する回答を行い、学修効果の向上に活用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬　実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性